

種名	ニ ゴ イ
	<u>Hemibarbus barbus</u> 
分類	コイ科カマツカ亜科ニゴイ属
俗称	ミノ・ミノー (青森県), セータ・セータッポ (埼玉県, 千葉県, 東京都), アラメ・アラメゴイ (長野県), マジカ (滋賀県, 京都府), キツネゴイ (三重県, 大阪府), ヒバチゴイ (奈良県)
形態的な特徴	体は細長く、体高が低い。吻が長いので、一見キツネ顔である。口は吻端の下方に開き、1 対の短い口ひげがある。唇は厚いが、乳頭突起は無い。野外ではコイと混同されることがあるが、背びれの第3棘状軟条が頑丈であり、背びれの基底が短く、尾びれの後縁の切れ込みが鋭いといった点で識別できる。肛門は尻びれ起点の直前にある。のど、胸部を含め体の腹面にうろこがある。体色は灰白色を基調とし、腹面は白色、各ひれは薄い橙色を呈する。全長約 20cm くらいまでの幼魚は、体側に 8～12 個の円形の暗色斑を持つ。側線は完全。咽頭歯は 3 列。成熟したオスでは、体色が紫黒色に変わり、顆粒状の追星が頭部、胸びれ、腹びれなどにあらわれる。
分布	日本の固有種。本州と四国のほぼ全域、および九州北西部に分布する。
繁殖行動	産卵期は 4 月～7 月、産卵は降雨後に川の中流域で行われる。卵は沈性粘着卵で、最大径約 3mm、受精後 3～4 日で孵化する。孵化直後の仔魚は全長 8mm、孵化後約 5 日で卵黄を吸収する。満 1 年で全長 8～12cm、2 年で 16～22cm、3 年で 20～30cm、4 年で 35cm 以上に成長する。普通 3～4 年で成熟するが、成熟時の最小全長は、メスよりオスの方がやや小さい。
生息場所	大きな川の中・下流域から汽水域まで、また湖にも生息する。流れのゆるやかな水域の底層部、特に砂底に多い。コイ科としては耐塩性がやや強く、汚濁や富栄養化にも強い。
食性	雑食性で、カゲロウ類、トビケラ類、カワゲラ類、ユスリカ幼虫を主体に、付着藻類や、小魚も食う。
生息環境への配慮事項	
利用	小骨が多いが肉質は良い。あらい、天ぷら、唐揚げなどにする。
引用文献： 改訂版 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚を改変	